

人権保育専門講座 8

「各園における人権保育を推進するために」

～園内の人権保育推進のために家庭支援推進保育士・教員の役割を考える～



講座②

『人権保育実践を「交流」しよう』

～各園で大切にしている取組を交流しよう～

常磐会短期大学 教授 ト田 真一郎さん

本年度より、専門性を高める研修会として、家庭支援推進保育士の方を中心とした連続講座を人権保育専門講座に位置づけ開催させていただきました。家庭支援推進保育士の方だけでなく、県内各地から総勢49人の参加があり、2回目も熱心な研修会となりました。

連続講座8の第2回目は、『人権保育実践を「交流」しよう』ということで、県内各地の保育のあり方や、保育を取り巻く状況から、テーマ別のグループに分かれて、相互に学び合いました。



～ト田先生のお話より～

1 実践から学び合う為に

○人権保育実践の多様性をふまえた学び合いの必要性

(例) 多文化共生保育における

「オールドカマー※1」と「ニューカマー※2」の実践の違い



【オールドカマー】

- ・日常の保育の中では、違いがほとんど見えないために、課題に気づきにくい。→ 「同化」に向かいやすい傾向がある。
- ・そのまま同化してしまうと、将来、アイデンティティの混乱などの課題が起こる可能性がある。
- ・将来、自己のルーツに出会ったときに、そのルーツに自信を持てるきっかけを幼児期に育てることが重要。

【ニューカマー】

- ・言葉が分からない。文化が違う。親とのコミュニケーションが難しいなど、目に見えやすい課題がある。→ 違いがあることがきっかけとなり、親子ともが園のコミュニティの中で「分離」に向かいやすい傾向がある。
- ・実践の中では、現在の園生活の中で発達に必要な経験を豊かにできるようになるという「今の課題」を見据えながらも、母国語の保持や民族的ルーツを大事にできる気持ちを育てることを通して「未来の」アイデンティティの危機を乗り越える力を育む。

★ただし、保育の活動内容には、両方の文化を取り入れる等、共通項がたくさんある。

でも、ねらいやめざすものは違う。



この背景の違いを理解しないと、お互いの実践からは学び合えない

※1…在日コリアンなど、日本による朝鮮植民地支配に、直接的、間接的に歴史的なルーツをもつ人たちとその子孫。

※2…1980年以降に渡日した外国人をニューカマーと呼び、中国、韓国、ブラジル、ベトナム等、様々なルーツをもつ人たちがいる。

【交流の中で大事にしたいポイント】

子どもは小さくても社会的・文化的な存在であり、「子どもは社会の矛盾を直接的に受けている存在である」ことをふまえ、子どもが抱えている社会的な背景も踏まえながら、お互いの実践の有り様を学ぶことが大切。

2. 実践を交流しましょう

それぞれの現場での取組には、その現場ならではの「真実」があります。それぞれの実践の背景にあるものから、理念、取組を交流し合い、学び合きましょう。

【交流のための手順】

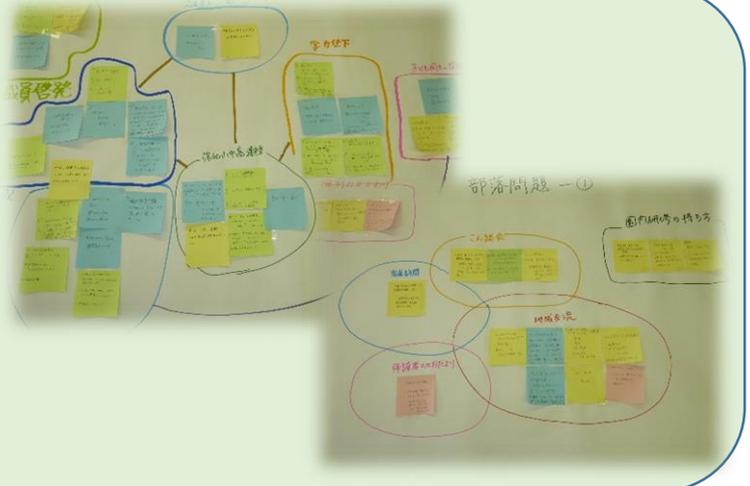
以下の3点を意識しながら、各園での取組をポストイットに記入していきましょう。

- ①「子ども・保護者・地域の現実の中にある課題について」
(実践のきっかけとなった「現実」をつかみましよう)
- ②「課題を受けての取組の中でめざすもの」
- ③「具体的な取組の内容」

☆グループのまとめ☆

部落問題

- ①・部落問題について知らない保護者・職員
・学力低下
・子ども・保護者のつながり 等
- ②・地域に根ざす保育所
・自分の生まれたところに誇りを持つこと
・自分のこととして考える 等
- ③・保護者・職員啓発
・家庭訪問
・保幼小中高連携 等



地域との交流

- ①・地域との関わりの薄さ
・保護者同士のつながり 等
- ②・地域の輪をつくること 等
- ③・地域の人に行事に参加してもらう
・家庭訪問
・他園・幼稚園・小学校と連携 等



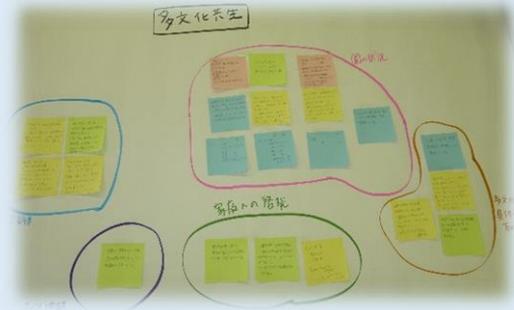
集団づくり

- ①・側でトラブルが起こっていても無関心 等
- ②・気かけ合う仲間関係
・自らが発信・動く力をつける 等
- ③・異年齢交流
・ふれあい遊び
・当番活動・グループ活動 等



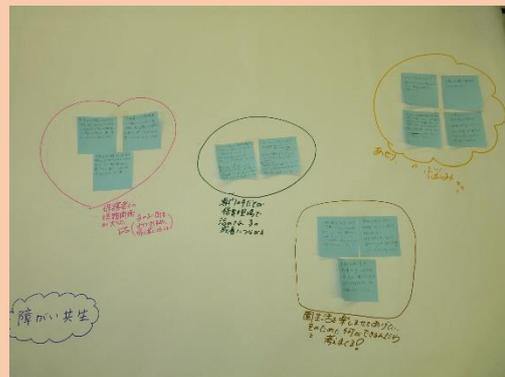
多文化共生保育

- ①・言葉の壁
 - ・保護者とのつながり
 - ・外国人への偏見等
- ②・文化的だけでなく、気持ちの部分での「共生」
- ③・登園時間や持ち物を分かりやすくする工夫
 - ・翻訳絵本
 - ・必要に応じた通訳・翻訳等



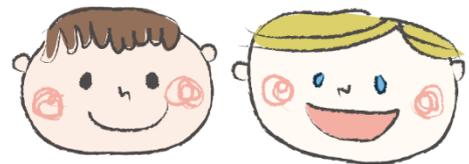
障がい共生保育

- ①・行事等への参加
 - ・保護者とのつながり等
- ②・保育園生活を楽しむ
 - ・保護者との信頼関係等
- ③・必要に応じたサポート
 - ・ふれあい遊び
 - ・手作り玩具等



保護者支援

- ①・保護者とのつながり
 - ・保護者同士のトラブル等
- ②・保護者同士のつながり
 - ・保護者が子どものことを考える等
- ③・送迎時の声かけ、家庭訪問
 - ・職員間・関係機関との連携
 - ・講演会・おたより等での発信等



グループ別に、自園での課題や実践等をお互いに出し合いながら、交流することができました。話し合いは、ブレインストーミング*という形式で行い、その後、各グループで話し合ったことを報告いただきました。研修会の最後には、第1回目と同じように、明日から取り組んでみたいこと「次の一歩」を参加者一人ひとりがポストイットに書き、模造紙に貼って気持ちを新たにしました。

*今回のブレインストーミングは、1枚のポストイットに1つの実践を記入し、15分間で思いつく実践をたくさんメモしました。その後、そのグループの中で実践を交流し合いました。

参加者のみなさんの感想のいくつかを紹介します！



○どんなことを話して良いか不安だったが、交流での話し合いが始まると、グループの皆さんの温かさもあり、私の知らなかったこと、学ぶべきことを楽しく吸収させていただきました。そして、この話し合いの中で、改めて人と人とのつながりの大切さ、温かさを感じることができました。

○保護者支援の奥深さを感じました。「しない」「できない」と否定的に見ている保護者の後ろには、必ず理由がある。そこを見抜けないと（理解、分からないと）一緒に歩めないなと感じました。

○三重県内の先生と同じテーマについて話をして、驚くことばかりだった。同じ市の先生と話す機会はたくさんあるが、他の市の先生と話す機会はあまりないので、とても勉強になりました。自分の園の状況を、しっかり把握することが大事だと感じました。

○勤務地近くの研修と違って、色々な園がある中で、学ぶこと、気づきがあり、とてもためになりました。明日から実践していきたいです。ありがとうございました。

○講演は丁寧で分かりやすかった。グループに分かれての話し合いは、話しやすい雰囲気です、“明日からまた頑張ろう”という気持ちになった。

～連続講座3では「発信」を
テーマに開催します！～

